

自家苗木生産を目的とした研修会では生産者同士の情報交換が有意義



年度に企画・開催しました。村内森林所有者、約50名の参加があり、実際に目にするのが初めてという参加者がほとんどで「撤出コストを下げるには、スイングヤーダが必要だ」との声が口々に聞かれるなど有意義な研修になりました。



「椎葉平家まつり」では林研の定番となりつつある「猪の串焼き」。集客を図りつつPRも

ました。研修の成果と村内での気運の高まりもあって、平成20年度には地元森林組合がスイングヤーダを導入し、プロセッサとの組み合わせにより効率的な間伐作業を行っています。

その他にも、「簡易GPS研修会」や、造林用苗木を自分たちで作るための「苗木研修会」も開催した結果、一部の会員は実際に育苗



木のふれあいスペース「木ダボの砂場」は子どもたちに人気

が開催されます。当グループでは、林業コーナー

し、地元まつりの「苗木コンクール」に出品するまでになりました。■村の一大イベント「椎葉平家まつり」での森林・林業のPR

村には平家落人伝説が伝承されており、毎年11月の第2土日には、村内外から2万人の人出で賑わう村最大のイベント「椎葉平家まつり」が開催されます。

■「椎葉の山を、どげんかせんといかん！」当グループは、森林施業技術の向上と林業経営の安定を目的に、昭和57年に村内の若手林業者を中心に会員約300名で発足し、技術研修や視察等を通じて林業経営改善に取り組んできましたが、木材価格の下落とともにその活動も縮小し、会員数も減少してきました。同時に、森林所有者の施業意欲も減退し、手入れ不足の森林が目立つようになりました。

しかしながら、林業は椎葉村の基幹産業。日頃からグループでは「椎葉の山をどげんかせんといかん！」グループ活動や地域の活気を取り戻したい」と活動の模索を

■「村内林家に新技術を次々に紹介」当グループ活動目標の一つに、「新たな林業技術の村内森林所有者への普及」があります。本村には、これまでスイングヤーダが導入されていなかったことから、会員の山林において、実際に使用して集材を行う間伐研修会を平成19

していただきました。そんなとき、平成18年度に吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業をいち早く導入し、森林・林業に関する情報を村民に発信し始めたのです。これをきっかけに、グループの規模は以前よりは小さくなったものの、会員一人ひとりが再びやる気を起こし、積極的に活動するようになりました。

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。

今後とも、「山からの恵みを受け、山を愛する我々が積極的に活動せんといかん！」という熱い思いのもとに、月1回程度のペースでグループ会合を開催しながら、山村地域の課題解決に向けた活動を積極的に展開できるように、支援したいと思っております。

（東臼杵農林振興局椎葉駐在所 主任技師 山本真一）

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。

■「木ダボの砂場」や「積み木の広場」を設置し、子ども達に幼少期から木材の良さに触れてもらう試みを行っています。



スイングヤーダとプロセッサを使っての間伐材搬出・造材研修会には、村内森林所有者約50名が参加



間伐研修会を実施した際の椎葉村林業研究グループの皆さん

WE LOVE forest ! 椎葉村林業研究グループ

宮崎県東臼杵郡椎葉村

設立年月日 昭和57年7月

会員数 59名